Jems News
No. 160
2026 年 11 月 5 日
日本環境変異原ゲノム学会
https://www.j-ems.org

＊＊＊＊＊＊＊＊＊　学会・シンポジウム報告　＊＊＊＊＊＊＊＊＊

IWGT 2026・ICEM 2026 参加報告

国際協力担当理事
橋本 清弘，戸塚 ゆ加里

2026 年 9 月，英国エディンバラにおいて，第 9 回 International Workshop on Genotoxicity Testing（IWGT）および第 14 回 International Conference on Environmental Mutagens（ICEM）が開催された．IWGT は 9 月 1 日から 4 日まで John McIntyre Conference Centre で，ICEM は 9 月 6 日から 10 日まで Edinburgh International Conference Centre（EICC）で開催され，世界各国の規制当局，産業界，学術界の専門家が集い，遺伝毒性学および環境変異原研究の最新動向について活発な議論が行われた．

IWGT は ICEM のサテライトミーティングとして開催され，参加者はワーキンググループ形式で重点課題について集中的に討議した．今回の IWGT では，肝臓小核試験の OECD 試験法化に向けた課題，in vivo コメット試験（OECD TG489）の技術的検討事項，異数性誘発物質のリスク評価，統計学的手法の活用，Quantitative Genotoxicology 3.0，Error-Corrected Sequencing（ECS），ならびに In silico/QSAR の活用と限界などが取り上げられた．これらのテーマはいずれも近年の規制科学や New Approach Methodologies（NAMs）に深く関連しており，今後の試験法開発やガイドライン整備に大きな影響を与える議論となった．IWGT で得られた合意事項は，今後学術論文として公表される予定である．

続いて開催された ICEM 2026 は，4 年に 1 度開催される環境変異原・遺伝毒性分野最大級の国際学会であり，今回は Professor Gareth Jenkins（Swansea University）が大会長となり，テーマは「Blending new technology with traditional genotoxicity approaches to solve real world problems」であった．AI や高度なバイオインフォマティクス，次世代シーケンス技術，革新的 in vitro モデルなどの新技術と，従来から蓄積されてきた遺伝毒性評価手法を融合し，現実社会の課題解決を目指す研究が数多く紹介された．基調講演，シンポジウム，ワークショップおよびポスター発表を通じて，環境変異原物質，ゲノム・エピゲノム解析，リスク評価，NAMs，遺伝子編集技術，データサイエンスなど幅広い分野における最新成果が共有された．特に，定量的リスク評価，ECS の規制利用，および AI を活用した予測毒性学に関する演題には高い関心が寄せられた．

また，本会議では JEMS 会員による講演・ポスター発表が数多く行われ，日本発の研究成果を国際社会へ発信する貴重な機会となった．会期中には IAEMGS カウンシルミーティングが開催され，次期 IAEMGS 会長に橋本清弘会員，副会長に松田知成会員が就任することが承認された．さらに 2030 年に日本で開催される ICEM2030 の大会長を戸塚ゆ加里会員が務めることがアナウンスされた．この結果は ICEM クロージングセレモニーの最後に全参加者へ正式にアナウンスされ，ICEM2030 の開催地が日本であることと併せて紹介された．日本の研究者が国際学会運営において中心的な役割を担うことが示されるとともに，JEMS に対する国際社会からの期待の大きさを実感する機会となった．

今回の IWGT および ICEM への参加を通じて，最新の科学的知見の共有のみならず，国際共同研究や規制科学に関する人的ネットワークの強化が図られた．また，ICEM2030 に向けた機運を高める重要な機会ともなり，今後 JEMS が国際的なプレゼンスをさらに高めていくうえで大きな一歩となった．



